

研究室とはコミュニケーションを 基盤に創造を育む場

研究室、教員室、事務室、図書館、実験棟等、キャンパス内にはワークスペースがたくさんあります。ワークスペースを働く場所（空間）だけと捉えず、コミュニケーション・チームの調和・働く人の満足度など職場環境として見つめ直そうと、吉田学部長から4人の若手事務スタッフに語ってもらいました。

学部長 吉田秀典

よしだひでのり
1995年東京大学大学院工学系研究科
土木工学専攻博士課程修了。
2005年香川大学工学部教授、
2015年10月～2025年9月
香川大学副学長。
スコッチ・ウイスキーの
シングルモルトを愛する。

研究室は創造と対話の場であり、 新規研究や社会実装につながる拠点

吉田 私個人のワークスペースは研究室。研究室は創造する場です。そして創造したことを、学生なり共同研究者と一緒に対話をして、新しい研究や社会実装に繋げていく場だと思っています。

学部の各ワークスペースは、学生さんと教職員さんがストレスなく、かつ和気あいあいと仕事をしたり、勉学をしたり、研究する場にしたいと考えております。スペースというと、空間だけが頭の中に思い浮かぶと思うのですが、私にとってはそれだけではなく、各自の考え、そこで交わされる議論も含めています。このことは学部長選出の面談時に、まず教職員の方々がストレスなく働ける場所を創出したいと申し上げました。

教員室・学生スペース・事務室がガラス等で可視化され、活動が見える構造

吉田 私の研究室は4年生ばかりが固まるとか、大学院生が固まることのないよう、大学院生



▼会議室にて、2025.12.22撮影

学部長
吉田秀典さん

総務課会計係
佐野小雪さん

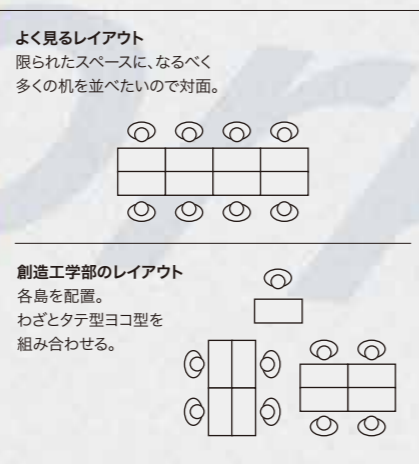
学務課技術係
福岡隆彦さん

総務課庶務係
三原千明さん

学務課学務係
高倉典子さん

と学部生入れ替わりをしたり、あるいは研究グループごとにとまっています。グループが画一的にならないように、あるいはその必要のないグループピングが起こらないようにと考えています。

創造工学部のワークスペースの特徴として、縦一列に机を並べないで、各島を作って配置しています。



席に座ると決まった人の顔しか見えないのではなく、全方向的に見えるように机が配置されています。特に庶務はうまく配置。このレイアウトは昔から採用されています。

席のレイアウトの他に、香大着任時(1999年4月)に違和感があったことが3つあります。まず第1に教員室のドアにガラスがあることです。今はスタンダートかもしれませんが、当時はビックリです。教員室ではテスト問題作成もあれば入試問題作成もあるので、本来見えない方がいいわけです。それが外から見えるのです。2つの目は学生さんのいる研究室。ここはタコ部屋というイメージが強かったです。研究室ごとに部屋があって、扉があって、その向こう側は何をしているかわからない。しかし、ここは完全なオープンスペース。研究の打ち合わせの内容とか話している内容は外部に漏れ、これで研究ができるのだからかと心配したほどです。3番目が事務の部屋。私が学生から教員になった頃は教員部屋と同じで、外から丸見えということはありませんでした。ここは見えました。学務係には学生対

応の窓口があります。窓口があるのはわかるのですが、すりガラスじゃなくてガラスで中が見えます。庶務係も窓があります。教職員含めて全て可視化されています。外から見るといのは、仕事内容に関して理解してもらえらる以外に、ハラスメントなどが起こりにくい環境になります。改めて、ワークスペースの風通しがいいのはなぜだろうと考えたときに、この学部の成り立ち、生い立ちから、そのような構造やレイアウトを採用したのではないかなと個人的に思っています。



総務課庶務係
三原千明さん

先生や学生との関わり、自席や働く環境を含めて、もう少し視野を広く大学全体のワークスペースを見つめたいと思います。

●仕事内容は職員の労務管理（勤務時間の管理、各種休暇管理、在宅勤務など）、教員・学生の出張の申請、研究助成等の各種申請などです。ほぼ毎日事務室で勤務しています。創造工学部は静かで広々としたキャンパス。学びや研究に集中できるキャンパスだと思います。



学務課学務係
高倉典子さん

吉田学部長がおっしゃる通り、座席の配置、職場の雰囲気、課内の情報共有、相談のしやすさを含めて風通しがいいと感じています。この対話をきっかけに、更に効率的な作業ができるよう、ワークスペースを見直します。

●仕事内容は奨学金及び授業料減免、学籍異動、国際関連業務(学生派遣、国際イベント)などです。基本的には事務室で業務を行っています。学生対応で窓口に出ることもあります。



総務課会計係
佐野小雪さん

ワークスペースを自席とばかり見てしまって、なかなか広い視野での考えが思い浮かびませんでした。吉田学部長の話聞いて、私も様々な視点で見ることができるようになっていきたいと思います。

●仕事内容は予算の執行。パソコンを使った作業が中心です。普段の業務(事務処理や資料作成)はほとんど事務室で行い、落ち着いた環境で作業しやすいです。自席の卓上カレンダーがお気に入りです。



学務課技術係
福岡隆彦さん

机の配置はここしか知らないのですが、吉田学部長の説明を聞いて納得しました。自分のワークスペースを見直すいい機会になりました。

●仕事内容は、主にプログラミングなどの授業支援、研究活動の技術的サポート、分析機器の管理・運用を担当。業務内容によって複数の場所を移動しています。事務室でのデスクワークに加え、実験室や研究室での機器対応、学生対応など、状況に応じながら仕事をしています。

▲各人のデスク(本人撮影)

ワークスペースの設計と環境整備が重要

吉田 研究室・学部のワークスペースは、単なる物理的空間ではなく、創造と対話を通じて新たな研究や社会実装を生み出す基盤であると思います。立場や学年を越えた交流を促す柔軟な配置と、教員室・学生スペース・事務室の可視化は、相互理解と信頼を育み、ハラスメントの抑止にも寄与します。風通しの良い環境こそが、安心して挑戦できる理想的な職場像であると考えます。

